“広い遠用度数領域”と“軽い加入度数”により、初めてバイフォーカルを使用する方にも快適な遠近両用高酸素透過性ハードコンタクトレンズ

（承認番号 21700BZZ00168000）

テクニカルガイド

旭化成アイミー株式会社
http://www.aime.jp

“広い遠用度数領域”と“軽い加入度数”により、初めてバイフォーカルを使用する方にも快適な遠近両用高酸素透過性ハードコンタクトレンズ”

はじめに

コンタクトレンズ装用人口の高齢化に伴い、遠近両用コンタクトレンズは数多く商品化されていますが、遠近両用コンタクトレンズの処方の成功は難しい面もあり、患者様の満足を得るには、見え方に慣れるまでの期間を要することが多いようです。
遠近両用レンズは、コンタクトレンズも眼鏡も遠･近の度数の差（加入度数）によって生じる“見え方の違い”が、従来のレンズの見え方と違うことにより「慣れる」まで時間を要することが、ひとつのハードルになっています。
眼鏡を初めて処方する場合、近視矯正レンズでは、弱度数から強度数へ慣れていくように、遠近両用レンズでも、低加入度数から高加入度数へ処方度数を工夫することがあります。
バイフォーカルコンタクトレンズを初めて試す患者様の場合は、その見え方に違和感の少ないレンズが、すすめやすく成功しやすいと言えるでしょう。
初めてバイフォーカルコンタクトレンズを試す方に、快適に使用してもらうには、
1. 広い遠用度数領域
2. 軽い加入度数
が必要であり、アイミークリアライフ･プルミエ※）は“広い遠用度数領域”と“軽い加入度数”、により、初めてバイフォーカルコンタクトレンズをする方におすすめのレンズです。

※）プルミエとはフランス語で“初めての”“第一の”と言う意味の言葉です。

目次

アイミークリアライフ・プルミエの特長

1.“広い遠用度数領域（4.5mm）”

遠用度数領域をできるだけ広く確保（当社従来比約 27% up）し、バイフォーカルコンタクトレンズとしてコントラストの良い快適な見え方を実現します。

2.“軽い加入度数（+0.75D）”

軽い加入度数（+0.75D）にしております。調節力 0.75D 分近くの見え方が楽になる実感が出ますので、手元の作業の多い方や初めてバイフォーカルコンタクトレンズを試す方、単焦点レンズを弱めの度数にしてお使いの方など、幅広い方におすすめです。

3. 速やかな視軸移動が可能な“遠近隣接デザイン”

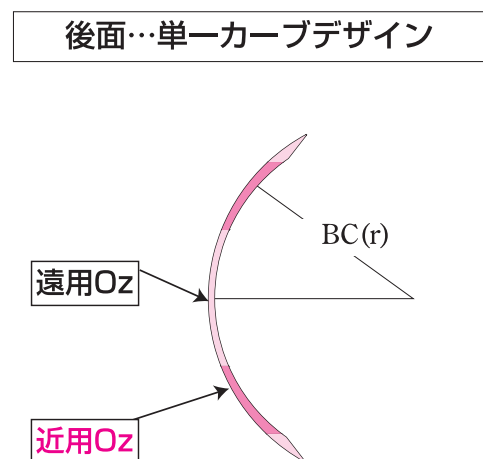
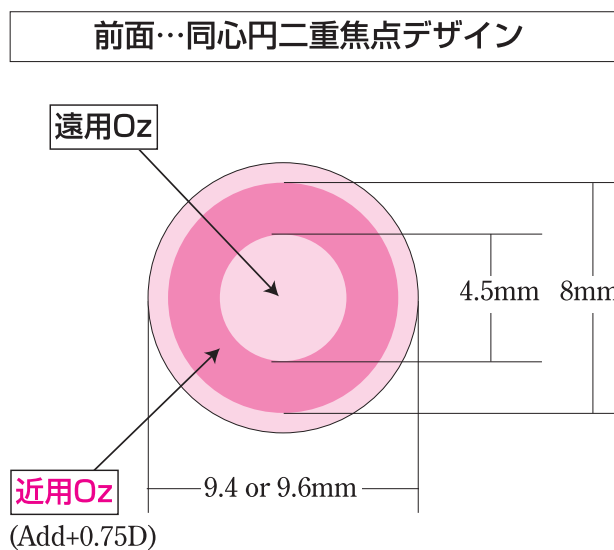
遠・近の度数が隣接することにより、視軸移動の効果が速やかに得られます。

4. センタリングと使いやすさのバランスを考慮した“標準レンズサイズ 9.4mm”

単焦点レンズからより移行しやすいレンズサイズ（標準 9.4mm）にしました。

アイミークリアライフ・プルミエのデザイン

前面…同心円二重焦点デザイン

後面…単一カーブデザイン

基本物性

項目	物性値	単位	測定法
酸素透過係数（Dｋ値）	136×10^{-11}	$(cm^2/sec)\cdot(mlO_2/ml\times mmHg)$	電極法
屈折率	1.445		JIS K7105
視感透過率	96.2	%	ISO8599
接触角	56	度	水中気泡法
硬　度	74		ショア　D
比　重	1.066		JIS K7112
吸水率	0.3	%	JIS K7209
紫外線吸収性能	95	%	光線透過率測定法

製作範囲

＜製作範囲＞

ベースカーブ（mm）	遠用度数（D）	加入度数（D）	サイズ径（mm）
7.20～8.50 （0. 10間隔）	＋5.00～－10.00（0.25間隔） －10.50～－15.00（0.50間隔）	＋0.75	9.4，9.6

＜即納範囲＞

ベースカーブ（mm）	遠用度数（D）	加入度数（D）	サイズ径（mm）
7.40～8.30 （0. 10間隔）	－1.00～－8.00（0.25間隔）	＋0.75	9.4

＜トライアルレンズセット（各２枚　合計２０枚セット）＞

ベースカーブ（mm）	遠用度数（D）	加入度数（D）	サイズ径（mm）
7.40～8.30 （0. 10間隔）	－3.00	＋0.75	9.4

＊刻印は、ＢＣを表示しています。

アイミークリアライフ プルミエの処方手順

（1）問診

処方に当たっては、問診および事前検査を行い、禁忌となるような疾患がないか確認して下さい。また、アイミークリアライフ・プルミエの主な処方対象は、手元の作業の多い方や初めてバイフォーカルコンタクトレンズを試す方、単焦点レンズを弱めの度数にしてお使いの方など、幅広い方々です。

＜問診時の確認事項＞

①コンタクトレンズの装用経験
②使用動機
③使用目的及び希望明視域
④その他、医師が必要と思われる事項

＊適応しやすい方

①老視により、近方が見づらいと訴えている患者のうち、ハードコンタクトレンズ装用経験者
②美容上などの理由で眼鏡をできるだけ使用したくない方、コンタクトレンズで近くも遠くも見たいと言う要望の強い方

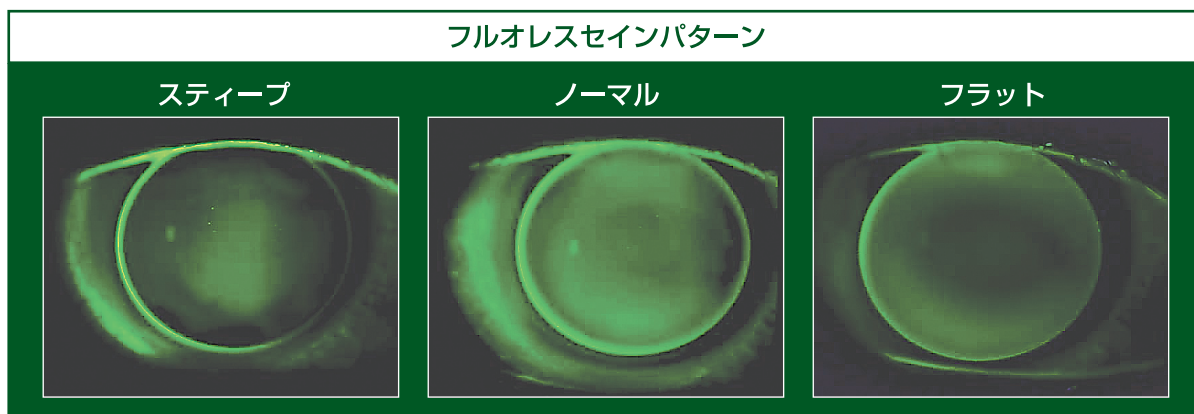
（2）眼科検査…①涙液分泌量検査　②前眼部検査　③他覚的屈折検査　④角膜曲率半径検査

（3）自覚的屈折検査（遠用矯正 及び 遠用矯正時の近方の見え方 確認）

（4）トライアルレンズの選定

トライアルレンズＢＣ ＝ 角膜曲率半径中間値＋ 0.10mm

（5）フィッティング検査

①フルオレスセインパターン ･･･ 単焦点レンズと同様に行って下さい。

②安定位置の確認
正面視した時、レンズが中央付近に安定しているか確認して下さい。
中央付近に安定していない場合は、BC を調整して下さい。
③動きの確認
瞬目後、速やかに角膜中央付近に安定するのが理想的です。

（6）遠用追加矯正検査（近用の見え方の確認）

①遠用度数の決定

トライアルレンズの上から、通常の単焦点レンズと同様に追加矯正を行い、遠用度数を決定します。**遠用の見え方は、追加矯正後の両眼の見え方で判断します。**

②近用の見え方確認

◎遠用追加矯正度数を加えたままで、近用の文字視標を正面視させた状態から、視標を下げて下方視させます。（図１ → 図２）

◎下方視させることで、見やすさを訴え始めたら、近用加入度の効果を確認できたことになります。見やすい状態の角度を保ち、近用視力表又は新聞、雑誌を用いて近方視力や見え方を確認します。（図２）

◎下方視の時、頭が下がっていると、近用加入度の効果は少なくなります。（図３）

◎両眼視の状態で下方視させ、見やすいゾーンが、近用視したい距離を含んでいるかを確認します。（図４）

図1 正面視

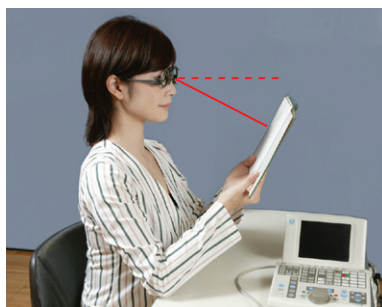



図2 下方視 ○

図3 下方視×（頭が下がる）

・近用視力表（又は新聞、雑誌等）が見やすい角度を保ちながら、見える範囲を確認します。

図4
近方視ができる範囲の確認

（近方視確認の留意点）

1．両眼の見え方で確認し“こうすると近くが見やすい”という理解が得られれば使い方を理解されたと考えて下さい。

2．近方視力表や視力の値にこだわらずに、実用的な雑誌等の文字で“今までよりは見やすい”という実感が得られているかを確認して下さい。

3．“それでも、もう少し近方を見えるようにしたい”という場合は、遠用度数を弱め（片眼 もしくは 両眼）にして下さい。

（7）処方レンズの決定

検査データから、処方レンズを決定します。

（8）見え方に不満を訴えた場合の調整

①遠用の見え方不満

夕方・夜間など明るさの変化で、“遠方が見づらい時がある”と訴える場合は、顔や頭の角度を少し意識させ“レンズの中央で見る”ようにすることで、改善する場合があります。

②近用の見え方不満

近用の見える範囲を確認すると共に、新聞・雑誌等（見たい対象物）を、見える範囲に持ってくることで改善する場合があります。不満が解消されない場合は、片眼もしくは両眼の遠用度数を下げて下さい。

その他 留意事項

アイミークリアライフ・プルミエは、遠近両用ハードコンタクトレンズとしての特性上、下記の点について、じゅうぶん指導して下さい。

◎車の運転等に関して

アイミークリアライフ·プルミエは、視軸移動型同心円タイプの遠近両用コンタクトレンズのため、“視軸移動の仕方”や“周囲の明るさの変化による見え方の違い”への適応が必要になります。さらに、遠近両用コンタクトレンズは、視力が安定するのに時間がかかることもあります。これらの適応は、個人差がありますので、見え方にじゅうぶん慣れてからでないと、車やバイクを運転することや機械類の操作することは、不慮の事故など、人体に障害をおよぼす危険があります。

車やバイクの運転や機械類の操作に関しては、眼鏡など従来の視力矯正方法をおすすめ下さい。

◎レンズの着脱に関して

アイミークリアライフ・プルミエは、遠近両用コンタクトレンズとして、視力の安定をはかる為、レンズサイズが少し大きめになっています。このためハードコンタクトレンズを使用していた患者さんの中にも、レンズの着脱に関して、“はずしにくさ”を訴えることがありますので、そのような場合には、着脱の指導を行って下さい。

◎適応しにくい方に関して

アイミークリアライフ・プルミエは、遠近両用コンタクトレンズとして、遠近共に広い光学度数領域を持つレンズですが、見え方の要求度が高い方の場合、視軸移動のやり方や見え方に慣れるのに時間を要する場合があります。遠近両用コンタクトレンズは、両眼での視力で捉えることや視軸移動の使い方に次第に慣れて行くことで、実用的に使用できるようになることをご説明下さい。

なお、アイミークリアライフ・プルミエは、初期老視患者の視力矯正に適している一方、成熟老視患者には適応しにくい場合があります。

◎階段の昇り降りに関して

アイミークリアライフ・プルミエでの見え方にじゅうぶん慣れるまでは階段の昇り降り（特に降りるとき）に注意してください。

装用スケジュール

アイミークリアライフ・プルミエは、高い酸素透過性と快適な装用感により、初日から長時間装用が可能ですが、個人差もありますので、初めて装用する患者には、下記のスケジュール表を参考に、装用者の使用状況に適した無理のないスケジュールをご指導下さい。

◎眠る前は、必ずはずすように指導して下さい。

◎都合により、装用を中止するときは、装用スケジュールの変更が必要です。特に眼疾患のため装用を中止した場合、必ず医師の指示に従い再装用の許可がでてから装用を指導して下さい。

◎一週間未満の中止の場合は、初日から終日装用が可能となります。

◎一週間以上中止した場合は、再検査を受けてから装用スケジュールに従い、徐々に慣らすように指導して下さい。

定期検査

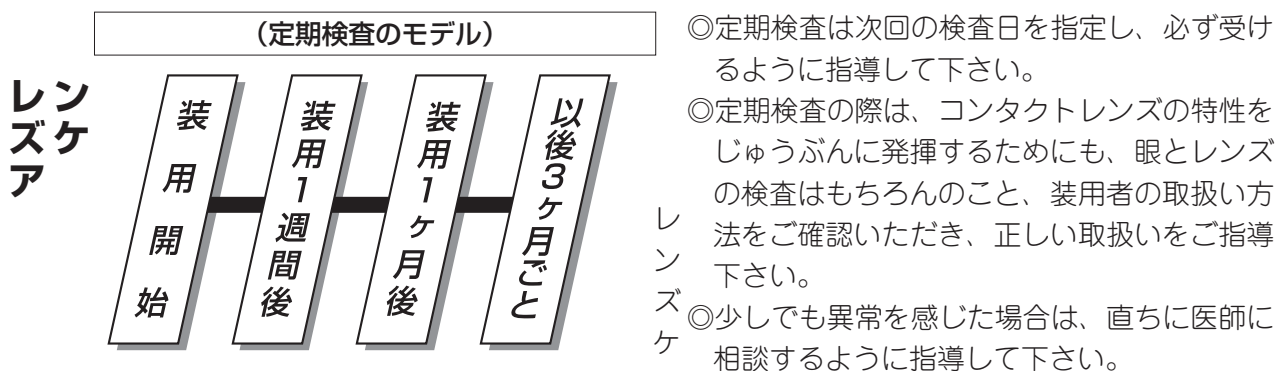
安全で快適な装用感を続けるために、調子良く装用していても定期検査を受けるように指導して下さい。

（定期検査のモデル）

装用開始 ― 装用1週間後 ― 装用1ヶ月後 ― 以後3ヶ月ごと

◎定期検査は次回の検査日を指定し、必ず受けるように指導して下さい。

◎定期検査の際は、コンタクトレンズの特性をじゅうぶんに発揮するためにも、眼とレンズの検査はもちろんのこと、装用者の取扱い方法をご確認いただき、正しい取扱いをご指導下さい。

◎少しでも異常を感じた場合は、直ちに医師に相談するように指導して下さい。

レンズケア

レンズケアは、レンズの性能を維持し、安全で快適な装用を続けるために欠くことのできないものです。

◎レンズの性能をじゅうぶん発揮するためにも、正しい取扱い方法を指導して下さい。

◎アイミークリアライフ・プルミエのレンズケアは“ ワンオーケア ”をお使い下さい。

◎レンズが汚れやすい方には、微粒子入りの“スーパークリーナー”で洗浄するように指導して下さい。

◎ケア用品の取り扱いに際しては、添付文書及び表示事項を必読するように指導して下さい。

患者指導

アイミークリアライフ・プルミエを快適かつ安全に装用できるように、患者へは以下の点について、じゅうぶん指導して下さい。

◎アイミークリアライフ・プルミエを使用する前に、必ず添付文書をよく読み、表現でわからないところがあれば、必ず眼科医に相談し、よく確認してから使用させて下さい。添付文書および取扱説明書は大切に保管するよう指導して下さい。

◎毎日、眼脂や充血がないか、異物感がないか患者自身に確認させ、少しでも異常を感じたら装用を中止し、すぐに眼科医の検査を受けるよう指導して下さい。

◎装用前にはいつも、レンズにキズ、汚れ等の不具合がないか確認させ、異常がみられたレンズは装用しないように指導して下さい。

◎終日装用レンズですので、装用したまま、眠らないよう指導して下さい。

◎体調の悪いときは、装用を控えるように指導して下さい。

◎装用中止した場合には、眼鏡等が必要となることを説明して下さい。

◎自覚症状がなく、調子良く装用していても眼やレンズにキズがついたり、眼障害が進行している場合があります。調子が良くても、定期検査は必ず受けるように指導して下さい。

処方に際して注意していただきたいこと

◎コンタクトレンズは高度管理医療機器です。

コンタクトレンズは、眼に直接のせて使用する高度管理医療機器です。取扱い方法やケア方法を誤ると重篤な眼障害につながることがあります。患者には、正しい取扱方法と定期検査の必要性を説明して下さい。

◎取扱説明書は、必ず患者にお渡し下さい。

新規の患者だけでなく、再作の患者にも必ず取扱説明書をお渡しいただき、正しい取扱方法をご指導下さい。